

高知くらしの護身術

179

花火の事故

5歳以下の被害目立つ

(2010年8月10日掲載原稿)

夏の風物詩である「花火」はこの季節、家族や友達と手軽に楽しむことができるものです。しかし、火や火薬を使うため、取り扱いには注意が必要です。全国の消費生活センターに寄せられている花火事故の相談は毎年60件前後。事故に遭うのは10歳未満の子どもが多く、特に5歳以下が目立っています。

事故の内容は、どの年代でもやけどが圧倒的に多くなっています。事故例を挙げましょう。4歳の男児が手持ち花火をしていたところ暴発し、近くにいた子どもが首や手、足にやけどを負った。ロケット花火を地面に刺し込んで打ち上げたところ、ロケットの頭部だけが飛んで子どもの目に当たった一などです。

被害者に子どもが多いことから、事故の背景には、花火の性質や危険性を知らなかったという面があります。また、最近の遊びや生活環境の変化で、親世代を含めた消費者が火を使う行為に不慣れになった点もあると思われます。

事故を防ぐためには①花火は危険性を伴う遊びであることを念頭におく②パッケージや本体の注意事項や説明書などを明るい場所で読む③点火にはマッチやライターではなく、ロウソクや線香を用いる④小さい子どもだけではしない—を心掛けましょう。

また、着衣着火の事故もあります。浴衣や丈の長い服を着用している場合は、袖やすそに火が触れないようにしてください。楽しい花火ですが危険も伴います。参加する人たちを含めて、十分注意しましょう。